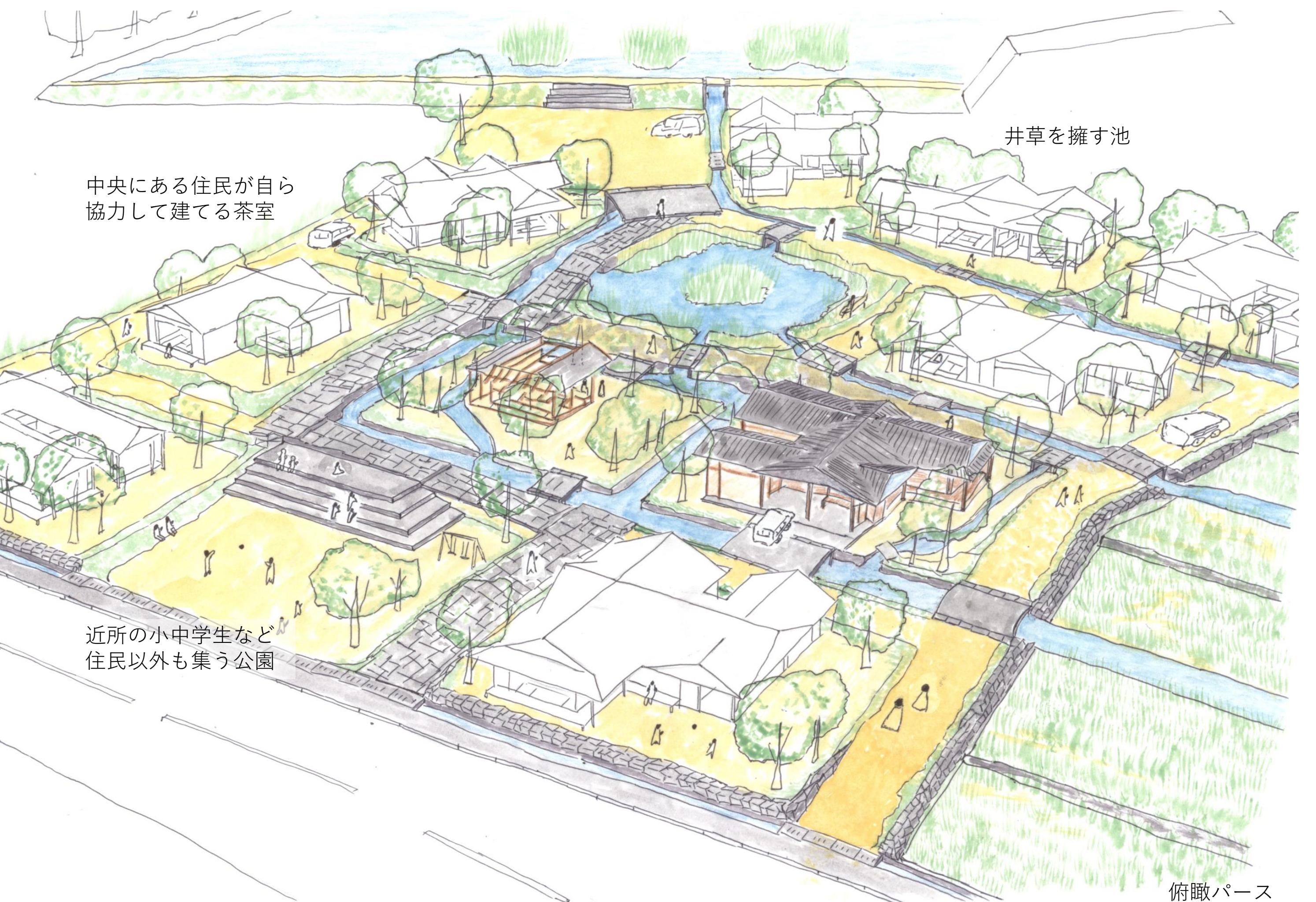
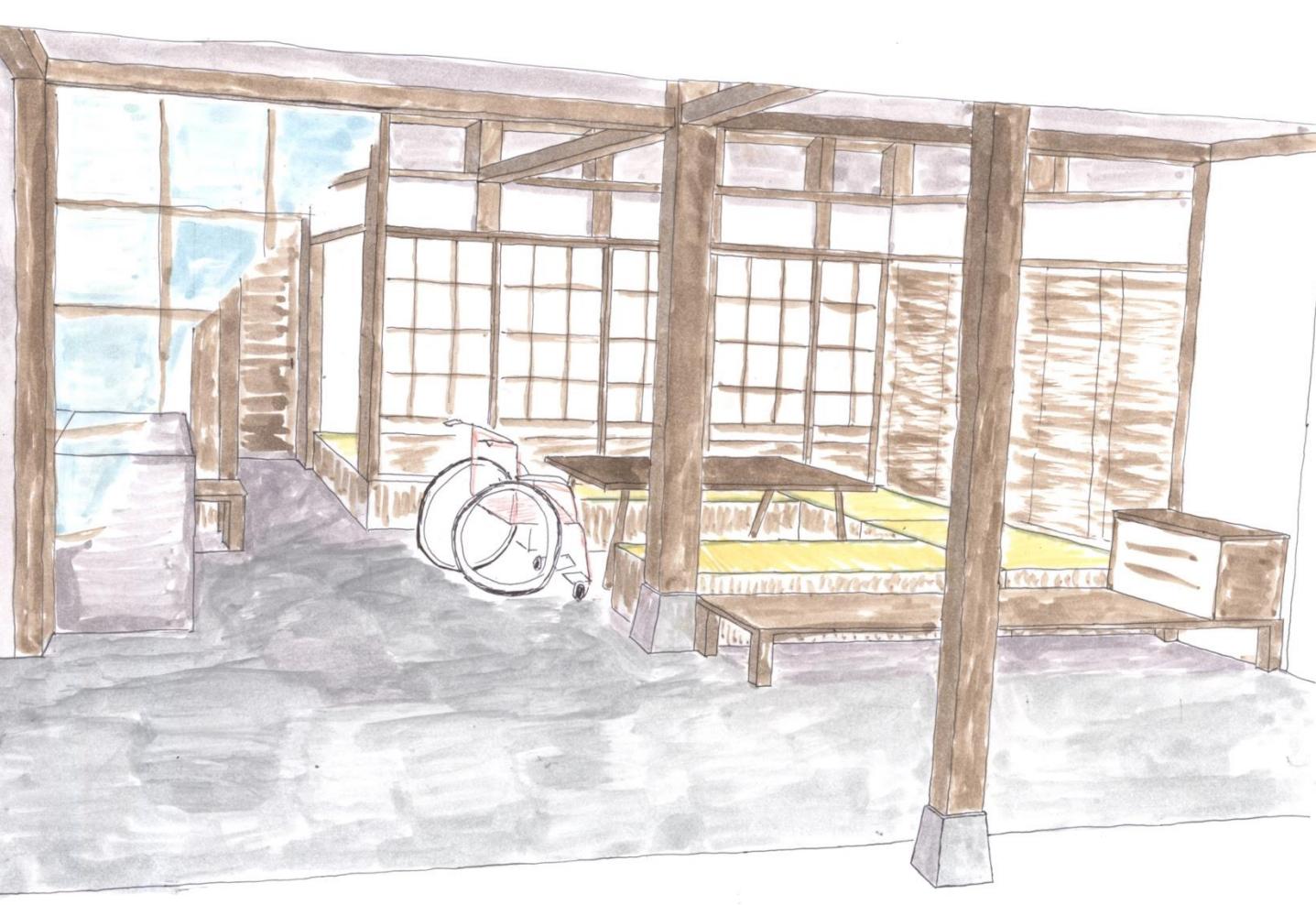
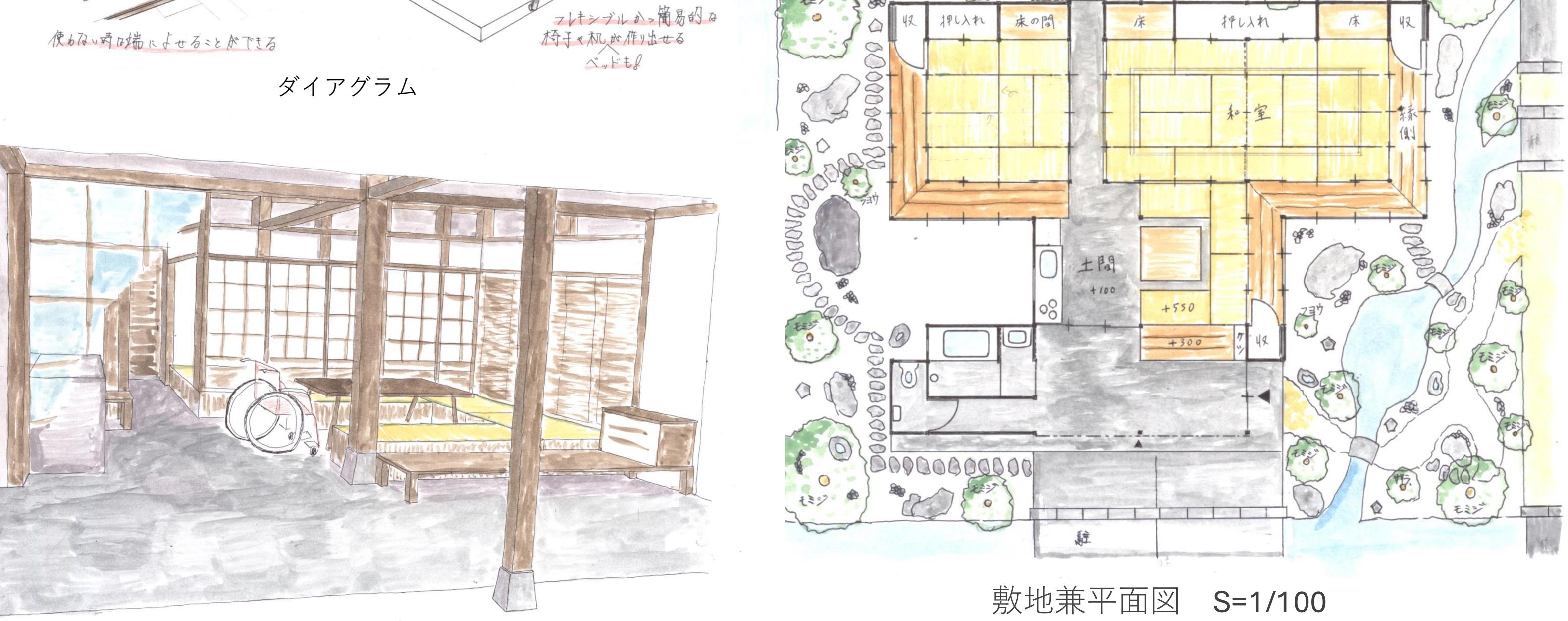
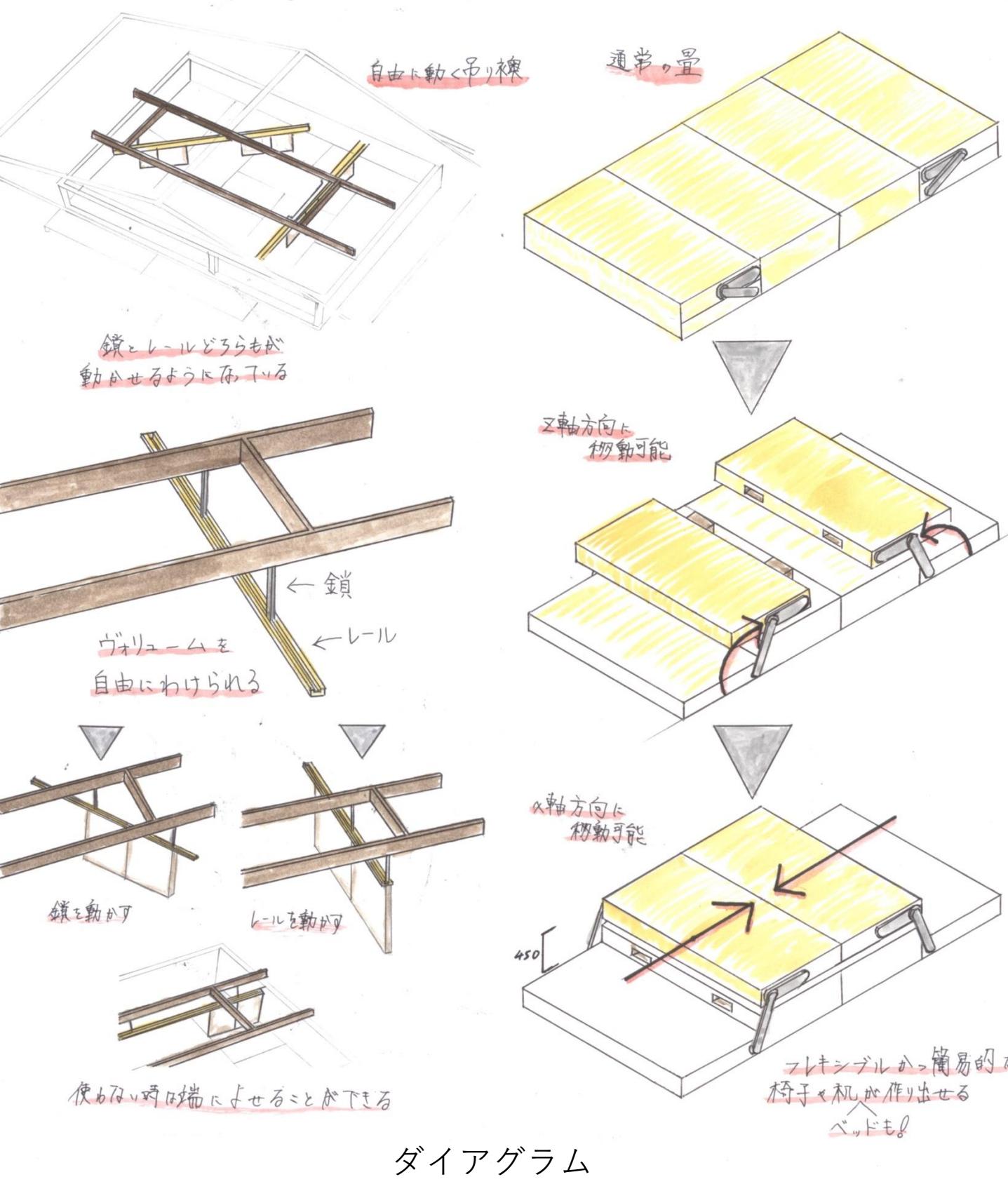
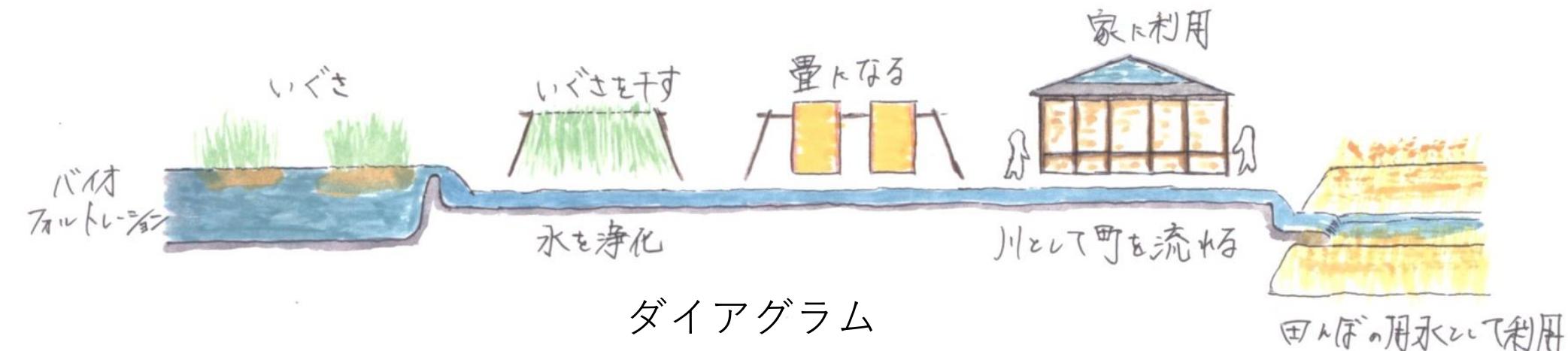


めぐ かな 回る里、適う家



本計画の住宅は、高齢者や車椅子利用者に配慮しながら多世代が柔軟に暮らせる空間を目指す。中心に土間を据えて段差をなくし、誰もが使いやすい共有の場を形成するとともに、台所・ダイニング・和室などへも容易に行き来できる動線を確保。Z軸方向に移動可能な畳や二重の吊り襖により、多様な暮らしに応じた空間調整を可能にする。さらに、乗り越し屋根で通風・採光を確保し、快適で持続可能な住環境を実現する。



淡路島は、兵庫県の中でも特に深刻な高齢化に伴う単身高齢者の増加、空き家の増加に加えて日本一ため池が多い地域であり、その管理者不足、水質悪化が課題となっている。そこで私たちは、多世代が集い、日常的に互いを支え合うことで地域に新たな共生の道を築く、「新たな里」を提案する。

本計画では、淡路市志筑にある廃業したパチンコ屋とその駐車場であった約6600m²の広々とした土地（となりは荒れた田であった）を舞台に里を設計し、その全体構想の中から、2段目東に位置する家を図面として描き出した。

この里には、公園や広場といった多世代間の交流を促進する場を中心に、空き家を減築し茶室などの公共空間へと再生させる仕組みを導入することで、地域の持続可能性を高め、空き家問題の解決にも寄与する。

また、ため池の水質改善と管理を支える仕組みとして「バイオフィルトレーション」に井草を活用し、水環境の再生と素材循環を両立させる。井草は池の浄化に用いた後、畳の素材へと転用され、建築空間の一部として再び人々の暮らしに取り込まれる。こうした循環により、自然環境と建築文化が結びつく。

さらに、浄化された水は小川として集落内を流れ、安心感や潤いを与えるながら人々の交流を育む。この循環とつながりの仕組みによって、環境再生とコミュニティ形成が一体となり、淡路島の未来を支える多世代共生型の居住環境が生まれる。

家族構成	
祖父	71
祖母	73
夫	46
妻	44
孫	14
孫	8
面積表	
敷地面積	300 m ²
延べ床面積	128.6 m ²
1階床面積	128.6 m ²
建築面積	128.6 m ²
用地全体面積	6647 m ²

